

シンポジウム

# 脱炭素経営への動き

参加費  
無料

エネルギー転換に向けた  
財務上のリスクと機会

10月7日

日時

2019年 10月7日 月  
10:00 ~ 12:00 (開場 9:30)

会場

イイノホールカンファレンスセンター RoomA  
(東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング)

- 東京メトロ 日比谷線・千代田線「霞ヶ関」駅 C4 出口直結
- 東京メトロ 丸ノ内線「霞ヶ関」駅 B2 出口 徒歩 5分
- 東京メトロ 銀座線「虎ノ門」駅 9 番出口 徒歩 3分

昨今、多方面で気候危機を予兆する事象が起こっており、気候変動への取り組みの強化は政府にとどまらず、企業や各アクターにおいても急務の課題となっています。

本シンポジウムでは、これからの日本の脱炭素経営への速やかな転換について、国内外の専門家や関係者からエネルギー転換に関する最新の分析や事例を紹介し、日本の脱炭素経営の動きの現状と課題について話題提供し、これからの展望するものです。

海外からは、カーボントラッカー・イニシアティブによる日本の石炭火力発電の経済性について分析した新規レポートや、デンマークの電力会社オーステッド (Orsted) のエネルギー転換の実例などをご紹介いただきます。また、日本からは、CDP ジャパンやその他専門家・関係企業・NGO から、日本の脱炭素経営やエネルギー転換の現状や課題を取り上げて話題提供します。

## プログラム (予定) : 同時通訳つき

開会挨拶 高村ゆかり (東京大学 未来ビジョン研究センター 教授)

### ● 日本における石炭火力発電の座礁資産リスク

マシュー・グレイ (カーボン・トラッカー・イニシアティブ 電力部門長)

マガリ・ジョセフ (カーボン・トラッカー・イニシアティブ エネルギー・アナリスト)

コメンテーター: 栗山 昭久 (財団法人地球環境戦略研究機関: IGES 研究員)

滝澤 元 (自然エネルギー財団 上級研究員)

### ● エネルギー転換へのビジネスモデル

～なぜ、またいかに Orsted は化石燃料から再生可能エネルギーへビジネス転換を果たしたのか～ —— ドリス・シューデック (オーステッド APAC 地域マネジャー)

### ● 日本企業の脱炭素経営の動き —— 森澤 充世 (CDP Worldwide-Japan ジャパンディレクター)

### ● パネルディスカッション —— ファシリテーター: 高村ゆかり

パネリスト: 金井 司 (三井住友トラスト・ホールディング)、銭谷 美幸 (第一生命)

平田 仁子 (気候ネットワーク)

閉会挨拶

申込方法 下記 URL 上のお申込みフォームにて、必要事項をご記入の上、送信してください。

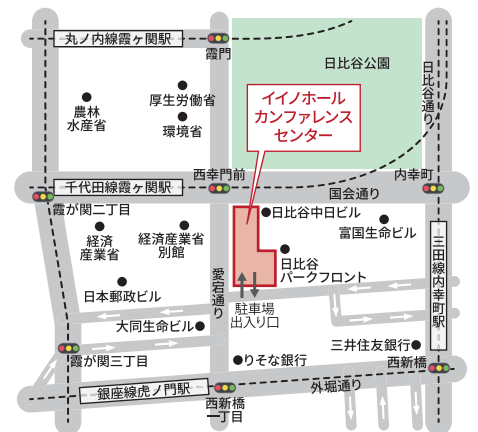
[http://bit.do/20191007\\_symposium](http://bit.do/20191007_symposium)

こちらの QR コードからもお申し込みいただけます。

定員 180 名

お問合せ シンポジウム事務局 (気候ネットワーク東京事務所)

Mail : [tokyo@kiconet.org](mailto:tokyo@kiconet.org) TEL : 03-3263-9210 FAX : 03-3263-9463



### カーボントラッカーについて

金融を専門とする英国のシンクタンク。資本市場へのエネルギー移行の影響と、高コストで炭素を大量に消費する化石燃料への潜在的な投資について詳細な分析を行っている。これまでも「Mind The Gap: the \$1.6 trillion energy transition risk (2018 年 3 月)」や「Brown is the new green (2019 年 3 月) 等を発表し、石炭火力等の座礁資産の金額を試算し公表している。

Orsted (オーステッド) について  
デンマークの電力会社。近年、電源を化石燃料から風力発電等の再生可能エネルギーへと転換を図り、2025 年再エネ比率 99% を目標に、洋上風力を中心に事業を展開している。

共催: カーボントラッカー、東京大学未来ビジョン研究センター 気候変動とエネルギー転換ユニット、  
CDP Worldwide-Japan、気候ネットワーク  
後援: 気候変動イニシアティブ (依頼中)